

令和6年度 立川地区チャレンジスクール開設準備室 学校経営計画

スクールミッション	
<p>地域や関係機関との連携を密に、多様で柔軟な教育活動を展開し、生徒が学ぶ楽しさや意義を見出します。生徒の【個性】【居場所】【自立】を大切にしたキャリア教育を推進し、生徒が自信や意欲を身に付け、社会の一員として自らの力で未来を創り出すことができるよう育成します。</p>	
教育目標	
<p>【個性】自分らしさと他者の個性を大切にする 【居場所】目標に向かってチャレンジできる（心の）居場所をつくる 【自立】社会の一員として自立し、多様な人々と協働して未来を創り出す</p>	
求める生徒像（Admission Policy）	
<p>本校の特色を理解し、自分の夢や目標に向かってチャレンジしようとする生徒 ①日々の学びを大切にしようとする生徒 ②社会生活を送る上で必要なルールやマナーを身に付け、基本的な生活習慣を確立しようとする生徒 ③体験活動や地域連携とおして、社会の一員として自立しようとする生徒 ④思いやりを大切にし、互いに成長しようとする生徒</p>	
中期的目標と方策	令和7年度の取組目標と具体的方策（開校時）
<p>【Ⅰ 学習指導】 【目標】 「学ぶ楽しさや意義の発見による、主体的な基礎学力の伸長と学習習慣の定着を図る」 【方策】 1 主体的な学習参加への促進 2 一人1台端末を活用した学びの推進 3 肯定的評価の活用</p>	<p>【目標】 「1 生徒が主体的に参加して分かる学びの実践」「2 一人1台端末を活用した個別最適な学び・協働的な学びの実践」「3 学習における肯定的評価の活用」 【方策】 1-1 生徒の「アウトプットの重視」「コミュニケーション能力の育成」を常に心掛けて、生徒が主体的に参加して分かる学びを展開する。 1-2 体験的な「社会につながる学び」「多様な人々との協働的な学び」とおして、生徒の探究心を育み、学ぶ楽しさや意義を見出せるようにする。 2-1 WEB学習等の充実やICT機器等を活用した学習活動を促進する。 2-2 だれでも・いつでも・どこでもの個別最適な学びを組織的に支援する。 3-1 肯定的評価の活用をテーマに、授業改善の研究・実践の取組を推進する。 3-2 生徒・保護者・第三者による授業評価を活用した授業改善体制を構築する。</p>
<p>【Ⅱ 進路指導】 【目標】 「社会につながる学びによるキャリア教育の推進」「生徒の希望進路の実現」 【方策】 1 「社会につながる学び」をスローガンとしたキャリア教育の実践 2 地域や関係機関と連携した学びの推進</p>	<p>【目標】 「1 社会につながる学びによるキャリア教育の実践」「2 地域や関係機関と連携した体験的・実践的な学びの展開」 【方策】 1-1 進路指導部と一年次が連携し、高校生活の手引き「TCSL（立川チャレンジスクールライフ）」を活用し、履修ガイダンス機能の充実、教科間連携による「産業と社会」「人間と社会」「リテラシー」、学び直し等を組織的に実施する。 2-1 進路講演会などの進路行事を実施するとともに、地域や関係機関と連携し、ボランティア活動、インターンシップ及び東京グローバル人材育成指針に基づいた使える英語教育など、体験的・実践的な学びを選択制で実施する。 2-2 学校外での体験活動や各種検定試験の受検を奨励し、単位認定するとともに、キャリアアップによる自信と意欲を高める。</p>
<p>【Ⅲ 生活指導】 【目標】 「基本的生活習慣の確立」「公共の精神の醸成」「社会参画の意識の高揚」 【方策】 1 基本的生活習慣の確立 2 思いやりがあふれる明るい学校の実現 3 生徒が参画する学校生活・学校行事の充実</p>	<p>【目標】 「1 生徒一人ひとりの基本的生活習慣の確立」「2 思いやりがあふれ、安心して学べる環境の提供」「3 生徒が参画する学校生活・学校行事（国際交流、特別支援教育、防災教育関係）の充実」 【方策】 1-1 1年次複数担任制を活用し、生徒一人一人が基本的生活習慣を確立できるよう、保護者や地域、関係機関と連携して指導する。 2-1 いじめを絶対に許さないという認識を共有できるよう全校体制で指導する。 2-2 相互に思いやりの心を持ち、社会生活を送る上で必要なルールやマナーを指導することで、人間としての在り方生き方を考え行動できる生徒を育成する。 3-1 オリンピック・パラリンピックレガシーを踏まえた国際理解教育の推進、近隣特別支援学校との交流行事、地域や関係機関と連携した防災教育などにより、生徒の参画意欲やボランティア精神を高める取組を実現する。</p>

教育の方針（Curriculum Policy）
<p>多様で柔軟な参加型の教育活動と肯定的評価のもと、生徒が学ぶ楽しさや意義を見出し、主体的にチャレンジする精神を養います。 【個々の学びたい思いを支える】 ・基礎学力の定着と伸長を図るとともに、興味・関心や進路希望に応じて、自学自習の習慣を身に付けます。 ・少人数・習熟度別指導を行うとともに、デジタル技術を活用した個別最適な学びを進めます。 【安心して学べる環境の提供】 ・学校は、専門家による相談機能を充実させ、生徒が安心してチャレンジできる居場所をつくります。 ・学校は、生徒一人ひとりの心に寄り添い、生徒が自身と相手を大切にして、互いに成長できるようにします。 【社会につながる学びを支える】 ・全ての学習活動において、アウトプットを重視し、相手に分かりやすく伝えるコミュニケーション能力を伸ばします。 ・体験的な学習において、協働的な学びを進め、社会の一員として、自分らしい生き方を具体化します。</p>
卒業までに身に付ける力（Graduation Policy）
<p>正解のない社会の中で成長し続けるため、「本校のキャリア教育で育む4つの力」の育成を教育活動全体で推進していきます。 ①【人間関係形成能力】相手の考えや立場を理解し、自分の考えを正確に伝えることができる力 ②【自己理解・自己管理能力】自分自身の肯定的な理解に基づいて行動し、成長のために進んで学ぼうとする力 ③【課題対応能力】課題を発見・分析し、適切な計画を立てて、解決することができる力 ④【キャリアプランニング能力】様々な情報を適切に活用しながら、主体的に判断して将来を設計していく力</p>
令和6年度の重点目標（数値目標）と具体的方策
<p>【重点目標】 「1 生徒が主体的に参加して分かる学びの実践」「2 一人1台端末を活用した個別最適な学び・協働的な学びの実践」「3 学習における肯定的評価の活用」についての準備 【方策】 1 3系列及び教養の選択科目において、生徒の探究心を育む授業計画を構築する。 2 デジタル技術を活用し、学び直しから発展的な学びまで、個別最適な学びに対応できる学習環境を設定する。 3 「生徒が参加して分かる学び」及び「肯定的評価の活用」について、研究・実践体制を構築する。 【数値目標】 ・3系列及び教養の選択科目における、令和7年度開講7科目の特別専門講師の選定・連携先の開拓（12月末） ・校内別室指導事業や学力向上研究校等の活用による、授業以外でも個別最適な学びの体制構築（3月末） ・先進校の視察や研究会等への参加による、研究・実践体制の構築（12月末）</p>
<p>【重点目標】 「1 社会につながる学びによるキャリア教育の実践」「2 地域や関係機関と連携した体験的・実践的な学びの実践」についての準備 【方策】 1 本校生徒用の高校生活の手引き「TCSL」を編集・作成する。 2 「産業社会と人間」「人間と社会」「リテラシー」の具体的な実施計画を構築する。 3 ボランティア活動や社会体験活動等、使える英語教育の連携先を開拓するとともに、実施体制を構築する。 【数値目標】 ・高校生活の手引き「TCSL」の完成（12月末） ・「産業社会と人間」「人間と社会」「リテラシー」の具体的な実施計画の構築（7月末） ・ボランティア活動等の連携先開拓・実施体制の構築（12月末・20事業所以上） ・使える英語教育の連携先開拓・実施体制の構築（12月末）</p>
<p>【重点目標】 「2 思いやりがあふれ、安心して学べる環境の提供」「3 生徒が参画する学校生活・学校行事の充実」についての準備 【方策】 1 いじめの総合対策、人権教育プログラム等に基づいた教員研修及び指導体制の構築を行う。 2 主権者教育と関連させ、生徒が参加する校則等の見直しを含め、生徒が参画できる学校生活・学校行事の指導体制の構築を行う。 3 近隣特別支援学校との行事連携、地域（自治会）に根付くような学校行事や活動について、企画・調整を行う。 【数値目標】 ・いじめに関する指導計画の作成、セーフティ教室の実施内容・連携先との調整（7月末） ・生徒が参画できる学校生活・学校行事の指導体制の構築（9月末） ・近隣特別支援学校との行事連携、地域（自治会）に根付くような学校行事や活動の企画・調整（12月末）</p>

中期的目標と方策	令和7年度の取組目標と具体的方策（開校時）
<p>【IV 心身の健康】 【目標】 「安心して学べる環境の提供」 「健康づくりの推進」 【方策】 1 個に応じた安心に生活できる学校の実現 2 楽しんでできる学校行事による体力向上の取組</p>	<p>【目標】 「1 生徒一人ひとりの心に寄り添い、安心して学べる環境の実現」「2 楽しんで参加できる学校行事による体力向上の取組」 【方策】 1-1 生徒一人ひとりについての的確なアセスメントを基に、校内居場所カフェを設置し、S C（スクールカウンセラー）やY S W（ユースソーシャルワーカー）との連携を強化して相談機能を充実させる。 1-2 Y S W業務管理システム等を活用したケース会議の定期開催、「SOSの出し方に関する教育」の推進などの事例研修会により、生徒情報の共有化を確実に行うことにより、生徒理解を深めて的確に支援する。 1-3 特別支援（発達障害も同様）に関する知識を共有し、個別に適切な対応体制を構築する。 2-1 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、スポーツディなど、生徒が楽しんでできる学校行事を実施し、体力向上への意識を高める。</p>
<p>【V 広報活動】 【目標】 「本校の特色と取組について理解」「応募倍率の確保」 【方策】 1 中学生・保護者等への情報発信の強化 2 広報活動の改善</p>	<p>【目標】 「1 中学生・保護者等への情報発信の強化」「2 本校の特色や取組の理解を図る広報活動」 【方策】 1-1 生徒の学校生活の様子を中心に、学校ホームページ更新を行い、中学2年生・保護者への情報発信を工夫し、本校の特色と取組について理解を得ていく。 1-2 生徒や保護者に魅力を発信するようなパンフレット等を検討する。 2-1 学校説明会を実施するとともに、地域の教育委員会との連携により、広報活動の方法や内容を改善し、本校の特色や取組を周知していく。</p>
<p>【VI 特別活動】 【目標】 「感動体験・成功体験による自信と意欲の高揚」 【方策】 1 感動体験・成功体験による自信と意欲の高まり 2 地域と連携した教育活動による社会性の育成・社会参加意識の高揚</p>	<p>【目標】 「1 感動体験・成功体験による自信と意欲の高まり」「2 地域連携を通じた社会に貢献できる人間性の向上」 【方策】 1-1 学校行事や校内・校外の大会や成果発表会、「部活動に関する総合的なガイドライン」に基づいた部活動等で、感動体験・成功体験を味わわせることを重視して取り組む。 1-2 生徒よる主体的な運営の実施により、学校行事、部活動（生徒会活動）、ホームルーム活動、主権者教育を活性化する。 2-1 地域と連携した、ボランティア活動、インターンシップ、多様性の理解事業、異文化交流等の社会につながる学びを推進して、生徒の社会性を育み、社会への参画意識を高揚させる。</p>
<p>【VII 学校経営・組織体制】 【目標】 「より良くしていこうとする『組織風土』づくり」「働き方改革の推進」 【方策】 1 プロジェクトチームや委員会の活用による企画調整会議の充実 2 法規法令の遵守 3 経営企画室と一体となった組織的で業務効率良い体制づくり 4 各種規程の見直し・組織の再構築</p>	<p>【目標】 「1 企画調整会議の充実」「2 法規法令の遵守」「3 経営企画室と一体となった組織的で業務効率良い体制づくり」「4 エビデンスに基づいた組織改善」 【方策】 1-1 プロジェクトチームや委員会でのきめ細かな検討で組織的対応力の向上を図ることにより、企画調整会議を充実させる。 1-2 統合型校務支援システム等の活用を促進させる。 2-1 高い倫理観をもった教職員集団と法規法令の遵守（服務事故ゼロを達成し、生徒・保護者の信頼を確立。特に体罰や不適切な指導を絶対に生じさせない。） 3-1 管理職が全教職員の毎月の在校時間を把握することで、ライフ・ワーク・バランスを推進する。 3-2 自律経営推進予算や学校徴収金、生徒会予算を計画的に予算執行する。 3-3 教育活動を具現化する施設設備の管理・維持を確実にに行い、開校後の安定的な学校運営を行う。 3-4 行政職員からの助言等をもとに、引継ぎ及び予算を意識した業務進行を行う。 4-1 学校経営計画・報告や各調査結果等に基づき、規程の見直し・組織の再構築等を行う。</p>

令和6年度の重点目標（数値目標）と具体的方策
<p>【重点目標】 「1 生徒一人ひとりの心に寄り添い、安心して学べる環境の実現」「2 楽しんで参加できる学校行事による体力向上の取組」についての準備 【方策】 1 アセスメントに基づいた生徒の個別カルテの作成、家庭連絡・訪問及び面談等のルール作りを行う。 2 計画的に校内居場所カフェ運営を軌道に乗せるとともに、クラス担任・S C・Y S W等との組織的な相談体制を構築する。 3 東京都医学総合研究所との連携による研究・実践を進め、自己肯定感の改善や不登校の減少の方策を探る。 4 スポーツディなど、生徒が楽しんで参加・運営できる学校行事を企画する。 【数値目標】 ・教育相談体制の構築（定例会3回実施・構築12月末） ・東京都医学総合研究所との連携による自己肯定感の改善や不登校の減少の研究・実践体制の構築（12月末） ・体力向上・健康づくりに関する学校行事の企画（10月末）</p>
<p>【重点目標】 「1 中学2年生・保護者等への情報発信の強化」「2 本校の特色や取組の理解を図る広報活動」についての準備 【方策】 1 新しいホームページへの切替及び定期的な更新を行う。業者を利用し、魅力ある学校案内を作成する。 2 新設校説明会を実施するとともに、近隣市の教育委員会の研修会等での説明、適応指導教室への訪問等を行う。 【数値目標】 ・新しいホームページへの切替（10月下旬）・更新（20回以上）、学校案内の作成（7月末） ・教育委員会の研修会等での説明（3件以上）・適応指導教室訪問（8件以上） ・学力による入学者選抜の応募倍率 1.5倍以上</p>
<p>【重点目標】 「1 感動体験・成功体験による自信と意欲の高まり」「2 地域連携を通じた社会に貢献できる人間性の向上」についての準備 【方策】 1 先進校等の視察を行い、特別活動に関する取組成果と課題分析を行う。 2 社会につながる学びを実現するため、ボランティア活動、インターンシップ、多様性の理解事業、異文化交流等、関係機関や地域と連携した活動の検討・構築を行う。 【数値目標】 特別活動（スポーツディ、文化祭、成果発表会など）の具体的な計画の構築（12月末） 関係機関や地域と連携した活動の具体的な計画の構築（12月末）</p>
<p>【重点目標】 「1 企画調整会議の充実」「2 法規法令の遵守」「3 経営企画室と一体となった組織的で業務効率良い体制づくり」「4 エビデンスに基づいた組織改善」についての準備 【方策】 1 組織目標・役割分担・業務進行表及び進行スケジュールの様式を統一して活用し、引継ぎ及び予算を意識した業務進行を行う。 2 プロジェクトチームで有志の積極的登用を図り、具体的な学校課題とその解決策を検討し実行する。また、各取組の成果検証と新たな改善を継続して行う。 3 管理職から、教職員の超過勤務状況を本人に毎月2回連絡し、超過勤務縮減の意識を高める。 4 校内研修等により、法規法令の遵守の意識を向上する。 5 定例会（施設）に毎回参加し、初度調弁の事前準備を確実にに行い、関係部署との連絡・調整を確実に進め、計画的に開校を迎えられるようにする。 【数値目標】 ・組織目標・役割分担・業務進行表及び進行スケジュールの作成（通年・年2回確認） ・管理運営規程に基づいたP T及び委員会及び構成員の確定（10月末） ・服務事故0件（前年度0件） ・月45時間以上超過勤務の教職員0名（自己研鑽の時間を除く。）、年次有給休暇の取得（全職員・年間15日以上）</p>